



ケータイIP

2011年(平成23年) 10月16日発行

主な内容

- 1~6.....地震に立ち向かう3つのキーワード 自助・共助・公助
- 7.....アドバンスコップADSホール催物、やなせ宿催し
- 8.....市民意識調査結果 名張での暮らしをどう感じていますか？

発行/名張市企画財政部広報対話室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 ✉pr@city.nabari.mie.jp 🌐http://www.city.nabari.lg.jp

入館無料 名張市防災センター
防災体験学習コーナー

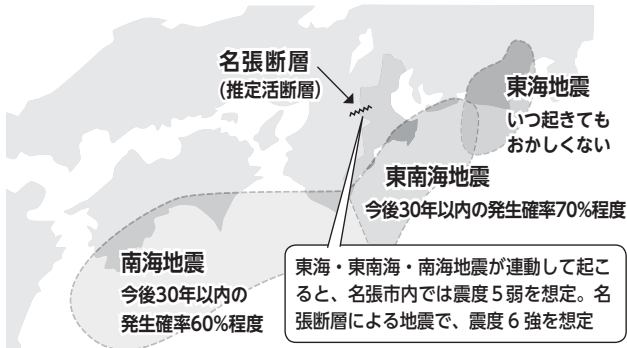
まずは、落ち着いて！
身の安全を守るには！

じ地震だ！

開館時間 午前9時～午後5時
※体験時間は30分～1時間程度
毎月第3日曜日、年末年始は休館
場所 防災センター1階(市役所隣)
予約方法 7人以上の団体の場合は、電話で名張消防署(☎63-0999)へ事前に予約してください。6人以下の場合は直接来館されても利用可能ですが、なるべく予約をしてください。



防災体験学習コーナーを訪れた小学生が、真剣な表情で消火器体験。昨年7月のオープン以来、入館者数は3,800人を超えた。



名張市民の3分の2は災害に備えていない!

昨年7月にオープンした名張市防災センター。1階にある防災体験学習コーナーには、消火器の扱い方や応急手当を学ぶ設備や、地震が起きたときの行動を体験できるリビングなどがあります。

「東日本大震災以降、来館者も

特集 **地震に立ち向かう3つのキーワード**

自助・共助・公助

3月11日、東日本大震災が発生し、多くの皆さんは、地震に対する備えが必要だと感じたのではないだろうか。今号では、「自助」「共助」「公助」という3つのキーワードから、地震に立ち向かうために、いま何ができるのかを考えます。

図 危機管理室 ☎63-7271

「自分たちの身は自分たちで守ろう」という意識の高まりを感じます」と話すのは、案内役の福田剛士さん。「社会見学でここを訪れた小学生が、再び家族と一緒に来てくれたり、自主防災の担当者が、地域の皆さんを大勢連れて来てくれたりすることも増えましたね。非常持出袋の中身や名張断層などについて熱心に質問を受けることも多く、ぜひ、ここで学んだことを家庭や地域で実践してほしい」と訴えます。

その一方で、今年4月に実施した市民意識調査では、3分の2の人が「地震などの災害に対して備えていない」と答えているのも事実です(詳しくは8ページ)。



地震による名張市内の被害想定は?

東海・東南海・南海地震は、それぞれ百数十年周期で発生しています。しかし、東海地震だけが、150年近く発生していないため、いつ起きてもおかし

一方、活断層の可能性もある名張断層が、万が一地震を引き起こすと、名張市内で震度6強が想定され、建物の倒壊や山崩れなどが起きる危険性があります。

市では、こうした地震に対応するため、新消防庁舎建設のほか、避難所の耐震化、木造住宅の耐震診断を進めるとともに、防災関係機関との連携、非常食や毛布の備蓄などに取り組んでいます。

しかし、災害への備えに万全はありません。また、東日本大震災は、想定を超える災害であったといわれています。地震に立ち向かうためには、自分の身は自分で守る「自助」、そして、地域で助け合う「共助」は不可欠なのです。

2ページ以降へ続く

【補足】東海地震は直近で1854年発生。東南海地震は1944年、南海地震は1946年に発生。東海・東南海・南海地震の発生確率は、地震調査研究推進本部の長期評価を参照。市内の震度想定は、三重県地域防災計画被害想定調査データブックを参照。名張断層による地震の発生確率は、過去の発災記録が存在せず不明